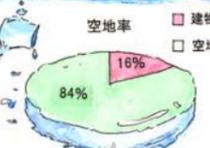
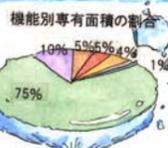


プロジェクト

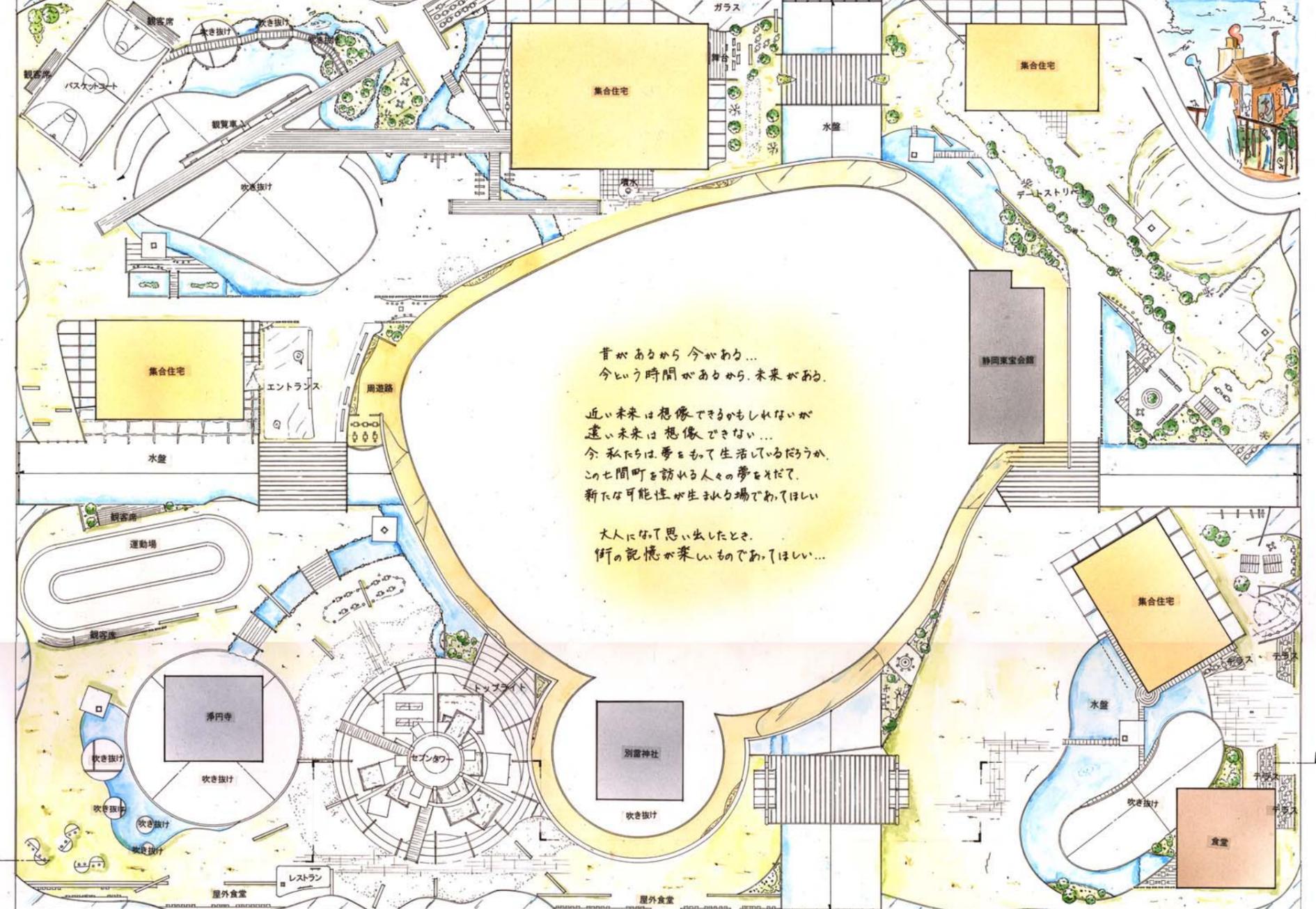


- 商業 3084.5 m²
- 文化・スポーツ系など 3259.6 m²
- 住居 2362 m²
- 宗教 720 m²
- 衛生 373 m²
- 緑地など 50406.5 m²
- 交通 6794 m²

七間町全体の空地率。開放的な空間の中で芸術、食事、運動、買い物などを行うことができる。

大道芸フェスティバルの開催
毎年11月に開催される日本最大の大道芸イベント、日本中から約200万人が訪れる。七間町を日本中にアピールするために映画館跡地「劇場 オリオン座」を始め、町中はパフォーマンスを行うことができる、ゆとりある空間になっている。

路面電車の復活
環境負荷の軽減、バリアフリーの観点から新静岡駅～七間町～JR静岡駅間に路面電車を巡回させ、七間町への人の流れを確保し、回遊空間の形成、交通アクセス向上を図る。



昔があるから今がある...
今という時間があるから、未来がある。

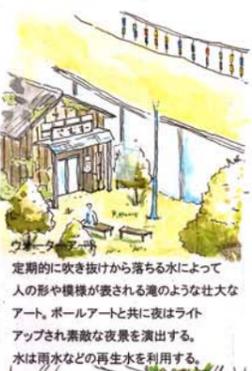
近い未来は想像できるかもしれないが
遠い未来は想像できない...
今、私たちは夢をみて生活しているから、
この七間町を訪れる人々の夢を叶えて、
新たな可能性が生み出さねばならない。

大人になつて思い出したとき、
街の記憶が楽しいものであつてほしい...

人工の大地(Artificial Land)平面図 scale:1:500



トラックアート
町中あらゆるところに装飾を施す。一見、何が描かれているのかわからないが正面に立つと模様や絵が浮かび上がる。町が次世代を担う若手芸術家のキャンパスとなり私たちは日常的にセンスを養うことができる。



ウォーターウォール
定期的な吹き抜けから落ちる水によって人の形や模様を表される滝のような大きなアート。ボールアートと共に夜はライトアップされ素敵な夜景を演出する。水は雨水などの再生水を利用する。



ファイバーアート
ファイバーをたたらして液を作り、そこを通ると先には新たな世界が待っている。布にしかない表情を出そうと芸術家や美術生は切実な思いで日々追及している。



フラワーアート
花、空、宇宙など様々な要素をオリジナルに表現するアート。休憩中や子どもが元気に遊んでいる時に、ふと眺めるとウォールアートがある。その風景は新たな七間町=アートの町として認識され、アートの発信地となるだろう。



アートウォール
芸術家が作った作品を直に感じてアートを感じる。たくさんの人たちに触れられ、アートは日々、変化していく。アートの無限の螺旋上にまたひとつ、新たな道が生まれる。



ボロノボックス (愛称: ほつちやん)
強度とデザイン性に優れたボロノイ図法を使った休憩所。疲れたら、一休み一休み。



集合住宅 scale:1:300

日当たりに応じて平面構成を変える。主要ロビンは南に配置する。

集合住宅(愛称: ベッセル)
宿泊機能を備え、観光客と地元住民、美術学校生のつながりをつくる。宿泊機能を備えることでピーターを遊や活性化につなげる。つながりが生まれ、「またこの町にきたいな...」と思わせることができるかも知れない。



立面図 scale:1:300

集合住宅1部屋当たり4人居住可能。七間町内には八層建て集合住宅5棟、七層建て集合住宅15棟あり合計で580人が居住可能になり七間町内には約500人住んでいるので全てで全ての住民を収容でき観光客も宿泊することができる。

二つの大地
地上をEarth、スラブをArtificial Land(人工の大地)と名づける。Earthは主に商業、交通、アートロードを中心にし、Artificial Landは車や自転車を気にせずに自由に走り回れ、大地全体が、スポーツ施設になる。タワーから見るとその風景は一枚の絵画のようだ。ここはゆっくりと時間が流れる七間町のオアシス。